

▽2020 年度実施事業計画

I 各事業の内容

(1) 故中村元博士の蔵書の管理及び中村元記念館の管理と運営

1. 中村元博士蔵書整理事業

事業の目的	「東洋思想研究の世界的権威」として松江名誉市民を贈られた故中村元博士の蔵書を、松江市の歴史的財産として保存し、哲学のみならず幅広い人文科学研究の進展に寄与すること。
実施期間・人数	通年 職員 4 名
事業内容	松江市からの委託契約(委託費約 1,500 万円/年)による、以下の業務を行う。 <ul style="list-style-type: none">・検索管理システムへの入力および目録作成(今年度登録目標 3000 冊)・蔵書整理マニュアルの作成・蔵書の適正な管理・報告書の作成・蔵書(書籍)以外の資料の適正な管理

(2) 東洋思想・文化に関わる研究、講座、イベント等の実施

1. 研究員による研究活動

事業の目的	故中村元博士が開拓した学問の道を探求し、学術・文化の振興に寄与する。
実施期間・人数	継続中・研究員 9 名
事業内容	<ul style="list-style-type: none">・中村元文化カフェでの公開講座。・「中村元記念館通信」への寄稿。・中村元記念館講座 講義・機関紙の作成・研究への助成
連携先	公益財団法人中村元東方研究所
想定される効果	研究員によるインド哲学や仏教をはじめとする東洋思想の研究発表などを通じて、東洋思想の拠点としての記念館の存在意義を高めることが期待できる。

2. 大学連携事業

事業の目的	記念館の理念に共鳴する大学と連携を結び、共同で事業を行う。 所属する教職員・学生、大学院生に来館してもらう。
実施期間・人数	通年
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・東方学院松江校に於ける連携大学教員の講座を開講 ・中村元東洋思想文化賞への協力。 ・記念館内に連携大学コーナーを開設し、各大学の企画による展示を行う。 ・大学生・大学院生などの職場体験受け入れ ・学生対象の見学案内など ・蔵書・資料調査
連携先	連携調印済大学: 大正大学、立正大学、佛教大学、島根大学、島根県立大学、東京大学(インド哲学仏教学研究室)、東洋大学、武蔵野大学、龍谷大学、大谷大学、
想定される効果	<p>国内外の大学に活用していただくことによる、研究施設としての価値向上、博士の研究に対する顕彰。また、全国に対する当館のPRに資する。</p> <p>若者への訴求力を高め、今後日本有数の哲学者の集積地として中村元記念館が発展することで、文化・教育レベルの高い松江市のブランドイメージが醸成される。</p>

3. 「中村元東洋思想文化賞」の実施

事業の目的	学術振興の一環として、東洋の思想文化に関する学生の論文を募集することで、次世代を担う若い世代への研究の啓発・助成を行う。
実施期間・人数	授賞式 2020年10月31日(土)
事業内容	<p>全国の大学の学部生の卒業論文及び修士課程学生の修士論文を募集し、公益財団法人 中村元東方研究所の協力によって審査を行い、下記の賞の受賞者を決定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優秀賞・奨励賞・松江市長賞
想定される効果	人文科学研究の振興、若手研究者の研究意欲向上。全国の大学に論文募集のPRを行うことで、記念館の知名度の向上が見込まれる

4. 東方学院松江校・中村元記念館文化講座の運営

事業の目的	インド哲学・仏教学をはじめとする東洋思想の講座を開講することを通じて、故中村元博士を知っていただく契機とする。
実施期間・人数	2020年4月～平成31年3月
実施人数	スタッフ4名 講師
事業内容	講師・受講生、開催会場などの管理と運営。それにとまなう広報活動。
実施講座数	【東方学院松江校講義】20講座 【中村元記念館文化講座】3講座 特別講演 服部育郎先生講演会
連携先	公益財団法人中村元東方研究所
想定される効果	当記念館の理念を実現していく上で、特に重要な事業の一つであり、また継続的な来館者数の確保と、それによる収入源の確保により、記念館の健全な運営に役立てる。本事業を通じて、山陰地域だけでなく、遠方からの来館者も見込まれる。

5. 企画展などの開催

事業の目的	中村元博士の研究や、東洋思想に理解を深めていただくために、博士の蔵書や、収蔵品を展示する。また、地域に関連した展示や、子どもたちに向けて博士の思想や、東洋思想などについて理解が深まるような内容の展示も行っていきたい。
実施期間・人数	随時開催予定
事業内容	①インド聖地巡礼の旅 ～郎博道作品展 第2弾～ 2018年に開催し好評を得た水彩スケッチ展の第2弾 期間：2019年12月3日（火）～ ②写真展 「松江の白鳥」 期間：2020年6月以降
想定される効果	来館者の増加による交流人口の拡大

(3) 東洋思想・文化の普及、啓発のための出版および広報事業

1. 書籍・グッズ販売

事業の目的	一般書店では手に入りにくい中村元博士の著作、東洋哲学、仏教関連書籍など、専門書籍を幅広く取りそろえ、来館者の知へのニーズを満たす。 記念館オリジナルのお土産品の提供による、来館者満足度の向上。
実施期間・人数	通年
販売グッズ	書籍販売では、出版社との協力なども得ながら情報収集などにつとめ、一般の方にはもちろん、研究者にとっても魅力ある専門書店としていきたい。 また、現在のオリジナルグッズ販売を継続し、さらに新たなグッズの開発に努める。キャッシュレス決済の導入を検討し、購買意欲を高めたい。

2. 博物館施設との連携

事業の目的	広く全国の方へ東洋思想・哲学を普及するため、哲学者をはじめとした人文学者を顕彰する全国の施設と連携し普及活動を推進。
実施期間・人数	継続中
事業内容	「島根大学」との連携について協議を進める。 他館については連携に向けて情報交換、相互の広報活動を継続する。 また、近隣施設を中心に新たな連携を図っていく。

3. 広報・出版活動

事業の目的	チラシやパンフレットを充実させる。ホームページやブログ、フェイスブックなど様々な媒体を通じて情報発信を行う。インスタグラム、ツイッター、LINEなども開設し、PRに努めたい。
実施期間・人数	通年
業内容	<ul style="list-style-type: none">・パンフレット・チラシ・ポスターの製作・配布・中村元記念館通信の発行・ホームページの運営・メールマガジンの発行(年間 12 回程度配信予定)・フェイスブック・ブログの運営(年間 50 回程度更新予定)・プレスリリースの発表・山陰中央新報紙面上にて中村元博士が遺された「慈しみの言葉」の連載・東方学院松江校講師による講座案内記事の掲載(随時)

(4) 国際文化交流事業

1. アジア文化紹介事業

事業の目的	中村元記念館の必要性や、利用向上を目的とし、中村元博士が研究されたアジア地域について紹介し、文化的な交流を促進するとともに、広く一般の方にも興味を持っていただくきっかけとする。
実施期間・人数	通年
事業内容	・アジアの文化を知る講座や展示等による紹介 ・アジア各国の文化紹介本等を設置し、気軽に読書することができる環境を整備。
想定される効果	哲学/宗教学といった学問的な入り口だけでなく、文化や芸術など比較的興味を持ちやすい分野からの入り口を用意することで中村元記念館の利用向上、中村元博士の顕彰に寄与。

2. 「国際ヨガデー関連イベント」の実施

事業の目的	国際ヨガデーにあわせて、博士の研究テーマでもあったヨーガとインドの文化を広く一般の方に楽しんでもらうことを目的とする
実施期間・人数	2020年6月
事業内容	未定
想定される効果	ブームとなっているヨーガの実践講座を行うことで、新たに記念館に足を運んでいただくきっかけとする。

3. 山陰インド協会への支援

事業の目的	「日印の絆の要」として記念館があり続けるために、山陰インド協会と連携し、インド等諸外国の要人を招き中村元博士と記念館を知っていただく。
実施期間・人数	継続中
事業内容	中村元博士が築いたインドとのつながりを文化、経済など幅広い交流に広げるため、山陰インド協会の活動をさらに支援していく。
連携先	中海・宍道湖市長会、中海・宍道湖・大山圏域経済会
想定される効果	地元企業の海外事業展開による、地域経済の活性化

(5) 地域の文化、経済、観光、人づくりを推進するために必要な事業

1. 地域との交流事業

事業の目的	行政、民間、地元八束町の要望に沿った交流事業を実施し、中村元と記念館を知っていただく契機とする。
実施期間・人数	通年
事業内容	<ul style="list-style-type: none">・中村元杯グランドゴルフ大会の開催。・ボランティアサポーター制度の継続。・八束学園、八束公民館との連携
想定される効果	町内イベントへの参加、講師・研究員と地元住民との交流によって当記念館の認知度を向上させ、住民の間で当記念館の存在意義を共有していただける。

2. 子ども教育事業

事業の目的	記念館の見学や、職場体験などで簡単な作業を体験し、中村博士の「慈しみ」の心にふれてもらい、小中学生の情操教育に役立てる。また、高校生・大学生にも自習室を解放し、利用してもらおう。
実施期間・人数	継続中
事業内容	<ul style="list-style-type: none">・小中学生の職場体験、夏休み子供ボランティア事業の実施・児童図書コーナー(さるすべりコーナー)の充実・自習室の開放・その他、教育委員会や、八束学園、公民館などと情報交換を行う。
連携先	公民館、松江市教育委員会、八束学園など周辺市町村の小中学校
想定される効果	子どもたちが「慈しみの心」と「寛容の精神」を持つ大切さを知る。また、松江が生んだ偉人である故中村元博士の業績を伝えることで子どもたちの郷土愛を醸成し、郷土に誇りを持てるようになる。

3. はじめハウスの活用

事業の目的	中村元記念館および利用者の行う会議、研究、宿泊、イベントなどの用途に対して、旧八束教員住宅を提供し、活用することで、周辺地域の活性化を促進する。
実施期間・人数	継続中
事業内容	研究者、学生等の記念館利用者に対し滞在場所を提供するほか、はじめハウスを利用したイベントの開催、課外講義の場として、また国指定特別天然記念物「幽鬼洞」、が近いこともあり、地質調査の勉強会など、地域とも連携しながら有効活用していく。
連携先	松江市、八束町公民館
想定される効果	記念館及び八束町の認知度の向上。

4. 地域人材活用育成事業

事業の目的	地域の学生や一般のボランティアを組織化して中村元記念館の事業を支援していただくことで、地域に眠る人材の活用や育成につなげる。
実施期間・人数	継続中
事業内容	島根大学学生支援課と連携し、島根大学の学生ボランティアの募集を推進する。 既に登録しているボランティアサポーターの意向調査を通じて、本人の希望に応じた業務を割り振ることでボランティアの方が働きやすい環境を作る。
連携先	島根大学、八束町公民館
想定される効果	学生の地域貢献や学習の深化、地域人材の生きがいの醸成。